

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400516		
法人名	有限会社アイ		
事業所名	グループホームアイケアホーム		
所在地	福山市神辺町字東中条1177番2		
自己評価作成日	平成23年8月17日	評価結果市町村受理日	平成23年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成23年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と池に囲まれ、静かでのどかな場所にあり、春はリビングから桜を眺める事が出来ます。また、鴨が悠々と泳いでいる姿や四季折々の花を楽しむことができます。当施設は9人の利用者と毎日一緒に生活する場として、出来ることは自分で、出来ないところを手助けするようにしています。日常生活で当たり前の生活を当たり前に生活できるように、利用者さんと共に協力しながら日々生活しています。誤嚥を招き易い方が半数以上おられる中で、楽しく食事ができるように、毎食手作りにこだわり喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングから見える窓下に大きな池と向かいの土手には古木の桜木があり、自然の花や池そして小川を流れる水音など、とても環境に恵まれた良いホームである。利用者リビングに集まって利用者同士・職員との会話も多く、笑い声のたえない雰囲気伺えた。利用者ケアに関して、職員同士も意見を出し合える環境があり、職員の思いや意見が運営に反映されコミュニケーションのとれた支援がなされている。運営者も健康に関して強い思いから上質の地下水を汲み上げ、利用者や職員の健康維持に貢献されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 毎朝の申 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務に就く前に必ず目に入る位置に理念を掲示し、職員に意識づけをしている。	玄関やリビング等3カ所の目の付く場所に掲示し、職員は理念を理解しいろいろな場面において、これを重視したケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には入居者の体調を考慮して出来るだけ参加させて頂くようにしている。	町内会に加入し地域の行事に積極的に参加するよう心がけている。尚夏祭りや花見など町内会に呼びかけ参加してもらっている。	利用者に地域の方も多く、日頃から散歩時の声かけや行事に積極的に参加し、災害時なども考慮して地域の自主防災組織とも具体的な対応などの取り組みが出来る体制づくりが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事等にはどなたも気楽に立ち寄れるように案内する。消防訓練等にも一緒に参加してもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の民生委員、家族、包括職員さんに参加して頂き状況報告、各種行事の説明をして、皆様から意見を頂いている。	担当の地域包括支援センター職員・民生委員・家族の代表が参加して2ヶ月に1回行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員(東部、北部)の担当者様と連携を密にして協力関係を築いている。	地域包括支援センター職員等、運営推進会議等で顔合わせしているので、相談できる体制は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設のケア目標として身体拘束ゼロをあげて取り組んでいる。	ホームの理念に明示して身体拘束ゼロを目標に掲げ、ベッドの補助具なども独自に工夫しながら身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の外部研修は積極的に行い研修後は研修修了者により内部研修を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加しその資料を基に、必要時には対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず本人と家族の方と面談の上契約を行なう、改定時には前もって文書にて報告をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、遠慮なく要望が言えるようにしている。また、日頃より信頼関係が築けるように面会時には職員のほうから様子を伝えるようにしている。	1ヶ月に1回、利用者のホーム内の様子や健康状態を報告している。 家族等からの意見や要望に対しては出来る範囲でケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議にて意見や提案を聞くようにしている。出された意見等は職員で話しあい納得の上で運営に反映させている。	毎朝の申し送り時に、日々のケア・利用者の状況など、意見交換を実施している。問題があれば緊急の場合を除いて運営者を含めて月1回の会議で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションをとり職場環境等について検討、改善を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員のレベルに応じた研修を選択し、受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講演の場を同業者との交流の場と兼ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはある程度の間人間関係が出来るように本人に面会をして要望等の訴えを傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にある程度の間人間関係が出来るように家族宅を訪問し要望等の訴えを傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテイクの際に施設入居以外のサービス利用が適応であれば、その都度対応している。本人、家族の思いを大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事前のテーブル拭き、手の消毒などをしてもらったり、お盆拭き、野菜の皮むき、味見、洗濯物やおしぼりを畳んだり、洋服の繕い等できるだけ一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が絶えないように、また負担とならないように、絶えず相談を行い、家族とともにご本人を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や地域の方、どなたでも気軽に面会できる雰囲気づくりを心がけている。	地域の方や友人が、訪問された場合には、利用者の居室に通して、交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を把握して、座る位置や声かけに配慮し、生活の中やレクリエーションで共に行なえる場面をつくり、利用者同士が関れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内や必要に応じて相談できる体制で支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で本人の希望や困っている事を把握するようにしている。	職員は利用者一人ひとりの傾聴に力を入れて、日頃の雑談や会話の中から、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテイク時の情報だけでなく、入居後も家族や本人より日常生活上で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行なって状態把握につとめている。その日の精神状態も把握し、その都度対処している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向をまずお伺いし職員会議でカンファレンスをおこなっている。	本人や家族との日頃のかかわりの中から、思いや意見を聴き、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、本人の現状に応じた介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人援助記録の活用を徹底し特記事項は申し送り帳で全員に送りをして情報を共有しており、見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調変化や入院等入院の準備が家族の対応困難なときは職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるピアノ演奏を毎月行い、歌を歌うことによる音楽療法に取り組んでいる。夏祭りには地域の方の二上がり音頭も楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診経過は特変時には家族にその都度報告をしている。また月1回の家族への手紙で状況の報告をしている。	本人の体調に合わせて、利用者各自のかかりつけ医で受診出来るように看護師が付き添い普段の様子や変化を伝えるなど、適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の報、連、相を基本的には申し送り帳で行い、緊急時は管理者が口頭にて看護師に申し送りをして利用者の適切な受診や看護を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が同行し、病院関係者とのコミュニケーションをとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に於ける対応に係る指針があり契約時に家族に説明している。	管理者・看護師が医師と密に連絡出来る体制が出来ているので、本人が37℃以上熱が出ると受診できるようになっている。このことは入居時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故の発生時の訓練はおこなっていない。マニュアルを参考にして急変時の対応を職員に話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練をおこなっている地域の方にも参加願い協力体制を築いている。夜間を想定した訓練を実施している。	職員は災害対策の認識が強く、いつも頭に入れた支援がなされている。スプリンクラーも設置されており、町内会の方や民生委員の方々も参加されて年2回消防訓練がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重しプライベートルームと共有スペースの使い分けをしている。又自尊心を傷つけないよう心がけている。	自尊心を傷つけないようまずは本人の気持ちを大切に考え常に問いかけるような言葉使いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日のお茶タイムは何が飲みたいのか、一人ひとりに聞いてお出したり、食べたいものを聞いて、食事を作り、思いを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに沿って支援をしており、行動を職員の都合で優先することはないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみに関心を持ち、声掛けをして本人の興味を引き出す工夫をしている。散髪は施設内でして、希望者は、散髪屋さんに連れて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて準備したり、一日のトータルで栄養を考え手作りで、食事を作っている。食欲をそるよう、盛り付け、色合い、を工夫している。嚥下困難な肩には、ミキサー食にトロミをつけて色あいよくしている。	全員の嗜好を記録し、利用者の食べたい物、希望を出来るだけ聴けるように心がけている。食事中も職員と一緒に楽しそうに会話をしながら食されていた。準備・片付けも可能な方は手伝いもなされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人援助記録にすべて把握できるように記録しており、水分量、食事量の不足気味の方には、本人に合わせて飲料、プリン、ゼリー、果物等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを声掛けをして行っている自分で難しい方は職員が介助して口腔内のチェックをして、清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人援助記録に排泄のパターンを把握できるようにして、個々のトイレ誘導にいかしている。	利用者半数の方は紙オムツを利用されているが、職員は利用者それぞれの排泄のパターンを把握して、さりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、牛乳・ヨーグルト植物繊維・果物を摂取してもらっているが、それでも便秘ぎみの方は担当医師に相談して下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月・火・木・金の週4日間を入浴日としている。	利用者の希望やタイミングに合わせ、週2回の曜日を選択してもらって入浴してもらっている。入浴は、利用者一人に職員一人付いて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の生活リズムを把握しながら本人の希望を聞いて対処している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については利用者ごとの薬局の処方箋をファイルしており職員は理解をしている、服薬変更等は都度申し送り帳にて職員全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌うのが好きな人、縫い物、編み物が好きな人、個々の生活歴を考慮して、お誘いしている。家事が好きな方には、手伝って頂いたり、外に出掛けることが好きな方には散歩、外出で、気分転換している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出支援は職員が対応しているが個別の外出支援が困難なときは家族の協力をお願いしている。	利用者の習慣や楽しみごとに合わせて外出している。月1回受診・買物が月1～2回・ドライブは月2～3回の支援をしている。行事の時には家族の支援をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できない方の支援は行なっていない本人の必要な物品の購入は立替え払いにて家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の希望にそって支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は適度な採光でバリアフリーとなっている。季節の展示物も入居者と職員の共同制作である。	共有空間は適度の彩光・適度の温度が保たれ、快適である。廊下には利用者と職員の共同制作の作品が展示されており、みんなが仲良く生活されている様子が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間のトラブルを避けるため座る位置の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのもの(家族の写真、仏壇、人形等)を飾られて、居心地よく生活できるようにしている。	利用者にとって、大切なもの、思い出のものなどが飾られている。本人が心地よく過ごせるように配慮されていた。居室は整理・整頓されており、嫌な臭気もなく快適である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入り口には部屋を間違わないように花の写真を部屋ごとに変えて表示しており、本人の希望により部屋にPTイレをおいている、建物外から建物内はすべてバリアフリーで廊下には手すりを取りつけてある。		

目標達成計画

作成日: 平成23年10月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	玄関やリビング等3カ所の目の
1	26	ヒヤリ・ハットの記入漏れと、改善点、工夫等のミーティングができていない	ヒヤリ・ハットがあった場合ミーティングをして再発防止をする	その日の勤務者で話し合い、ヒヤリ、ハットに記入 次の勤務者に申し送る 毎月の全体会議で再確認して事故の防止に努める	12カ月
2	27	社内で繰り返し研修をしなくてはならない課題ができていない	認知症、感染症、虐待、倫理、身体拘束、急変災害、栄養、口腔ケア等等毎月全体会議に取りあげて勉強をする	研修計画を立てて毎月の全体会議の中で勉強する	12カ月
3					
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。